

いなべ 平成 28 年度 稲部遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 28 年 10 月 22 日
彦根市教育委員会 文化財課

1 はじめに

彦根市教育委員会では、彦根市稻部町・彦富町において稲部遺跡の発掘調査を実施しました。この調査は、市道芹橋彦富線道路改良工事に關わる調査で、稲部遺跡としては 6 回目と 7 回目の調査となります。第 6 次調査区は、独立棟持柱建物、井戸、金属器工房からなる儀礼空間の南側に位置し、第 7 次調査区は、密集する堅穴建物群と方形区画が確認された第 3 次調査区の南側に位置します。調査期間は、第 6 次が平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月、第 7 次が平成 27 年 11 月から開始し、現在調査中です。調査面積は、第 6 次が 1042.33 m²、第 7 次が 430.37 m²です。

2 調査地の位置と環境

調査地は標高約 90.00m 前後の旧愛知川の微高地にあたります。微高地の北には旧愛知川である文禄川が、やや南には同様に旧愛知川である来迎川が流れています。周辺では弥生時代後期から古墳時代前期の遺構が密集して分布しています。

稲部遺跡と稻部西遺跡を含む稲部遺跡群は、昭和 56 年（1981）の宅地造成工事に伴ってはじめて調査されました。その後、平成 25 年（2013）から開始された市道改良工事に關わる調査において独立棟持柱建物、大型建物、方形区画、金属器工房などが発見され、現在までに 180 棟を超える堅穴建物が検出されていますが、第 6 次調査で大型建物 3 棟が、第 7 次調査で大型建物 2 棟、超大型建物 2 棟、大規模な鍛冶工房群が確認されたことにより、稲部遺跡群の全体的な遺構の変遷が明らかとなりました。また、稲部遺跡群調査指導検討会（平成 28 年 9 月 7 日開催）における調査成果の審議を経て、稲部遺跡群が、弥生時代から古墳時代にかけての日本の国家形成期を考える上で極めて重要な遺跡であると評価されています。

3 調査の概要

（1）第 6 次調査

大型建物 3 棟を含む掘立柱建物 6 棟以上、堅穴建物 20 棟以上、排水溝 4 条、大溝 1 条などを検出しました。

倉庫・儀礼施設とみられる大型建物 3 棟（23.80 m²以上、30.70 m²以上、推定 50.60 m²の独立棟持柱建物）が弥生時代終末から古墳時代前期（3 世紀中葉から後葉）にかけて連続して同じ場所に建てられる集落の中心的な儀礼空間です。儀礼施設や居館の可能性のある方形区画とほぼ同じ時期です。

大溝からは土師器とともに韓式系土器も出土しています。

（2）第 7 次調査

鍛冶工房の可能性が高い堅穴建物 23 棟以上を含む堅穴建物 30 棟以上、排水溝 2 条、方形区画の一部である溝、堀の可能性がある柵列を検出しました。

弥生時代終末から古墳時代初期（3 世紀中葉）には、倉庫・儀礼施設や居館の可能性がある方形区画とその内側の大型建物 1（独立棟持柱建物・43 m²）が出現し、方形区画の南側では大規模な鍛冶工房群で鉄器（鉄製武器や農工具）生産が行われています。

その後、古墳時代前期前半から後半（3 世紀中葉から 4 世紀）にかけて、方形区画を切ってさらに新しい大型建物 2（63 m²）・超大型建物 1（188 m²）・超大型建物 2（145 m²）が柵（堀の可能性がある。）を伴って出現します。特に、超大型建物 1 は、纏向遺跡（奈良県桜井市）第 166 次調査の超大型建物（238.08 m²）に次ぐ日本列島屈指の規模です。大型建物 2・超大型建物 1 は、居館域の一部を構成する建物であり、超大型建物 2 は、王権の関与する巨大な倉庫である可能性が考えられます。

4 まとめ

○北陸や美濃・尾張などの東日本方面と畿内の大きな地域をつなぐ、地理的に重要な位置にある 3 世紀の近畿北部の中心的な遺跡です。これは、大和（奈良県）、伯耆（鳥取県）、越前（福井県）、湖南地域（滋賀県南部）、美濃（岐阜県）、尾張（愛知県）、伊勢（三重県）、東遠江から駿河（静岡県東部）の各地域の土器の出土からも各地からの交渉があり、交流の要、物流の中心地となっていることが裏付けられます。朝鮮半島の渡来人との関係を示す韓式系土器も出土しています。

○直径数百m、面積約 200,000 m²、弥生時代後期中葉（2 世紀）から古墳時代中期（5 世紀）にかけて継続する巨大な集落です。

○青銅器の鋳造、朝鮮半島から運ばれた鉄素材をもとに鉄器の大規模な生産を行っており、大型建物・超大型建物や独立棟持柱建物という首長層が居住したり、儀礼に使用したと考えられる建物と区画が時代を経るごとに出現し、王権との関わりによって政治色を強めていく過程を示しています。

○祭祀都市・政治都市としての面を強く持ち、工業都市としての面もあわせ持つ近江の巨大勢力・クニの中核部であり、3 世紀の国内屈指の遺跡です。

○3 世紀前半を中心とするヤマト政権が成立しつつある時代、日本の歴史上でも非常に重要な時期の大集落です。日本列島における倭国（倭）の成立を考慮する上で、今までにない極めて重要な遺跡です。

○3 世紀の時代にとどまらず、4 世紀から 5 世紀には、巨大倉庫の出現によって物流拠点として発展、継続し、韓式系土器（三国時代・3~7 世紀の朝鮮半島南部地域から渡来人が持ち運んだり、すでに日本に住んでいた人々が朝鮮半島の土器をまねて作った土器）の出土から、朝鮮半島と交流し、当時の最先端技術を渡来人から導入していた可能性があります。

○ヤマト政権との関係を前提として、荒神山古墳の築造に関わる巨大勢力の本拠地である可能性を含め、荒神山古墳との深いつながりをもつ遺跡です。

○稲部遺跡では、縄文時代後期（今から 4,500 年前）から中世（今から 500 年ほど前）までの遺構と遺物が見つかっています。中でも、弥生時代後期中葉（紀元 2 世紀）から、古墳時代前期（4 世紀）にかけての非常におおきな集落がみつかりました。これは、「ムラ」というよりも、むしろ「クニ」の中核部のような集落で、非常に学術的価値の高いものです。教科書にも載っている「魏志倭人伝」（中国の歴史書）が伝える「邪馬台國」とほぼ同じ時代の遺跡です。「魏志倭人伝」に書かれる「倭（日本のこと）」には、「邪馬台國」という大きな国があり、「卑弥呼」という女王がいた、と書かれていることがよく知られていますが、その統計には日本の中に邪馬台國の他に魏と外交関係をもつ三十か国がある、とあります。その三十か国の中の一つが、稲部遺跡である可能性が出てきました。ただし、まだ遺跡全体の 2 割程度しか明らかになっておらず、周辺にはさらに重要な遺構が存在している可能性が高いものと考えられます。大型建物や超大型建物の上部構造、方形区画内の遺構の解明、鍛冶工房群の実態とその広がり、集落の構造などについてもさらに検討していく必要があります。荒神山古墳の築造背景や被葬者との関係についても大きな課題です。

発掘調査にあたりましては、関係機関、地元関係の方々から多大なるご協力をいただきました。記して御礼申し上げます。非常に重要な遺跡の保護のため、更に周辺の調査を推進し、稲部遺跡群の構造や遺構の性格を明らかにしていきたいと考えております。

解説シート

○「邪馬台国」と「三十国」とは：3世紀末に書かれた中国の魏の歴史書「魏志倭人伝」では、もともと百余りのクニがあり、それがやがて魏と外交関係をもつ三十のクニになります。クニにはそれぞれ王がおり、邪馬台国には大倭王がいると記されます。邪馬台国には卑弥呼もいたとされ、当時の日本（倭国）の様子を知る唯一の文献資料です。

○「大型建物」とは：大型建物とは拠点集落の特別な場所に建てられた約20m以上の大規模で、希少性の高い特別な建物です。居館、祭殿、倉庫などの機能が考えられています。100m以上は超大型建物とされ、数はきわめて少ないものです。

○「居館」とは：地域支配や経営の拠点としての性格を備え、弥生時代末から古墳時代初めに柵や溝で方形に区画した空間（方形区画）が顕著に発達し、一般の人々の居住域と離れて出現するもので、古墳時代前期には豪族居館のみが濠・溝をめぐらすようになります。こうした集落の変化は、古墳の出現と連動し、社会が支配するものと支配されるものとに分かれ、それぞれの居所が違う場所になったことを示します。

○「鉄」について：当時の権力を支えた貴重な資源の一つ。朝鮮半島から鉄素材を調達し、専門の工人が鍛冶で鉄製の武器や農工具を作っていました。鉄資源流通ルートの確保がヤマト政権にとっては大事でした。

豆知識

○発掘調査ってなに？

遺跡がある場所に道路や建物を作ると、遺跡は壊れなくなってしまいます。遺跡は私たちの祖先が生きてきた大切な証であり、国民の財産ですので、壊れてしまう前に記録をとり、重要な遺跡である場合には、壊さずに大切に保存し、市民の皆さんに活用してもらうようにします。

○どうやって遺跡があるかわかるの？

地面の下に遺跡があるかどうかは試掘調査をしないとわかりません。開発をする前に、試し掘りをしたりして現地を確認し、遺跡があるかどうか確かめます。遺跡があることがわかれれば、どうしても破壊が避けられない場合に「本調査」といって、専門の職員によって調査を行います。



遺構配置図 (いこうはいちず)

(弥生時代後期中葉から後葉 2世紀) 竪穴建物による集落が形成。鋳冶工房1棟。多角形建物の居住域。

(弥生時代終末 3世紀初頭から前葉) 北端部に独立柱持柱建物、井戸、金属器工房からなる儀礼空間が形成。周溝付建物の居住域。

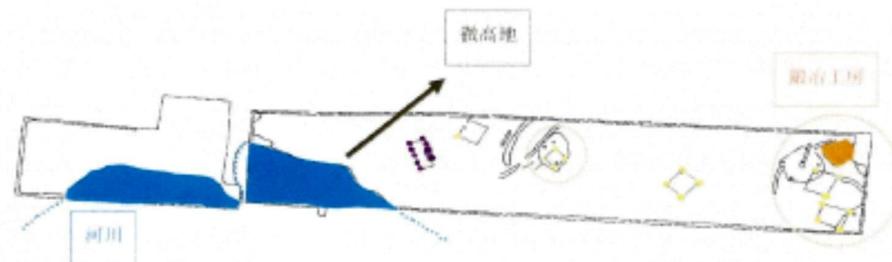
(弥生時代終末 3世紀前葉から中葉) 竪穴建物約60棟。方形区画の南側で鉄器生産が開始。北端部の儀礼空間は維続。

(弥生時代終末から古墳時代初頭 3世紀中葉) 方形区画と独立柱持柱建物が出現し、その南側の鋳冶工房群の操業は最盛期。倉庫・儀礼施設が建設され、北端部の儀礼空間から南側の儀礼空間(6次)へ比重が移動。

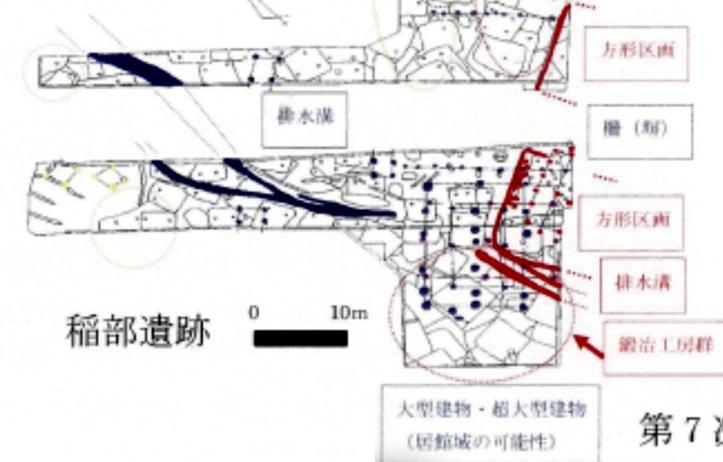
方形区画と儀礼空間(6次)が成立し、併存。集落内の機能分化・階層分化が顕著になり、首長層の台頭。

(古墳時代前期前半 3世紀中葉から後葉) 方形区画を切って大型建物・超大型建物(居館や倉庫の可能性)が権(堀)による区画を伴って出現(7次)。ヤマト政権との関係によって、権力の増大と安定。

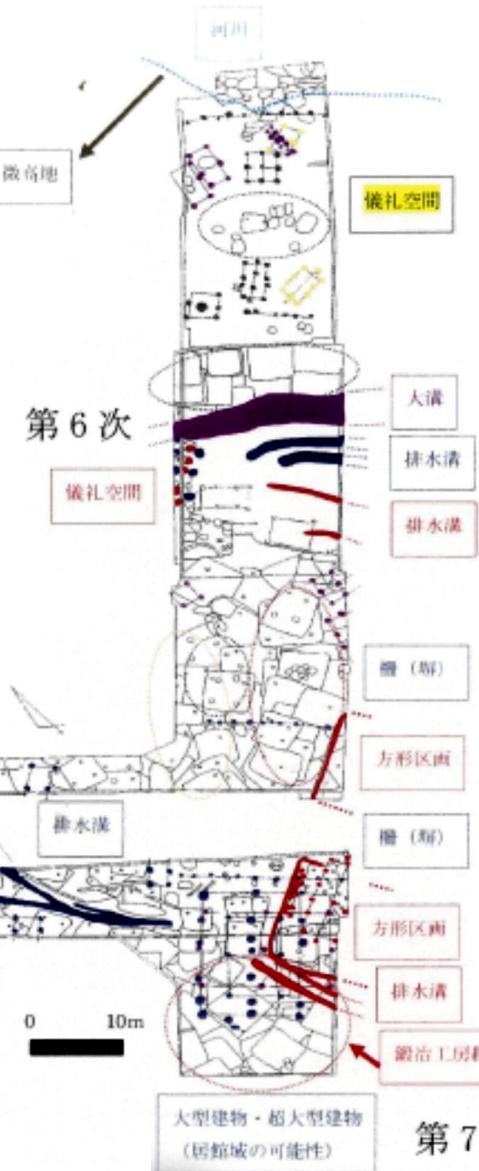
(古墳時代前期後半から古墳時代中期 4世紀から5世紀) 超大型建物が出現し、ヤマト政権下の物流拠点として機能。大溝の堀削と韓式系土器の出土。



稻部西遺跡

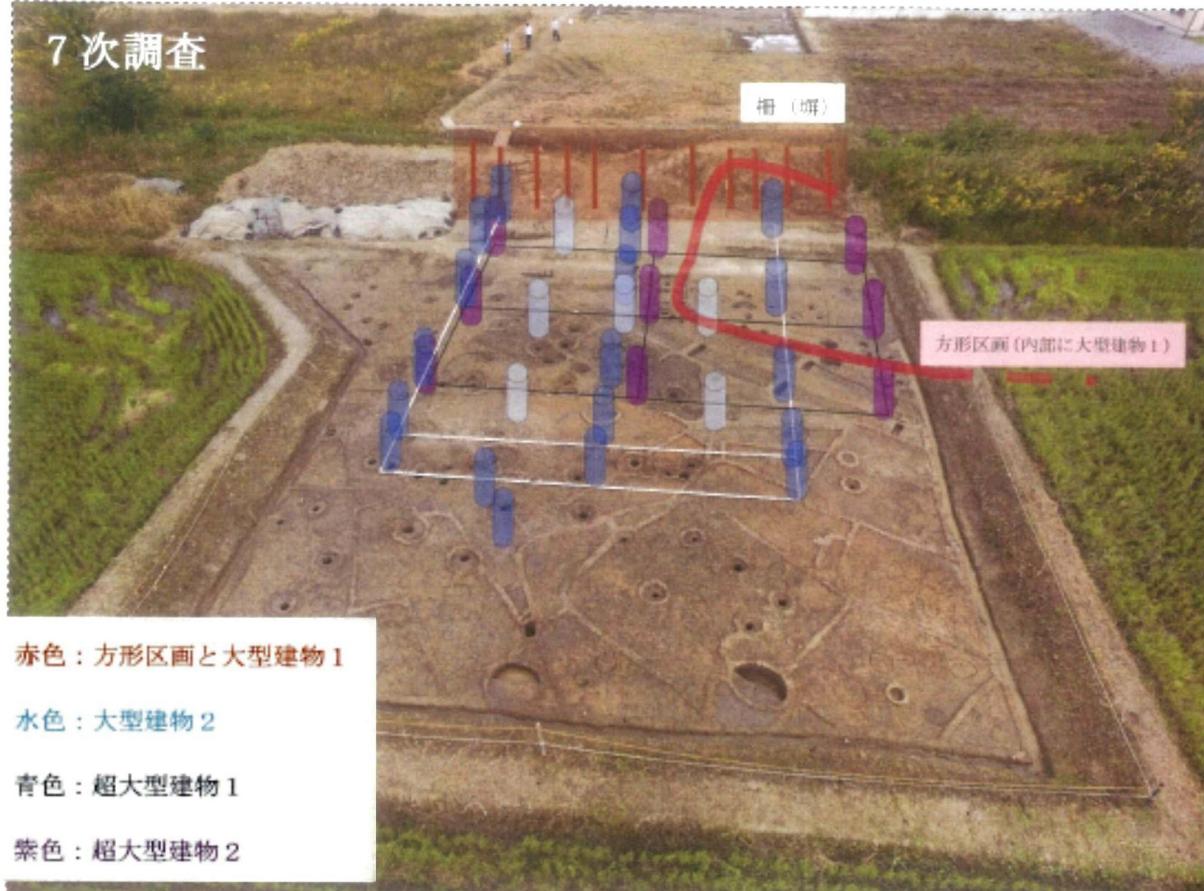


稻部遺跡



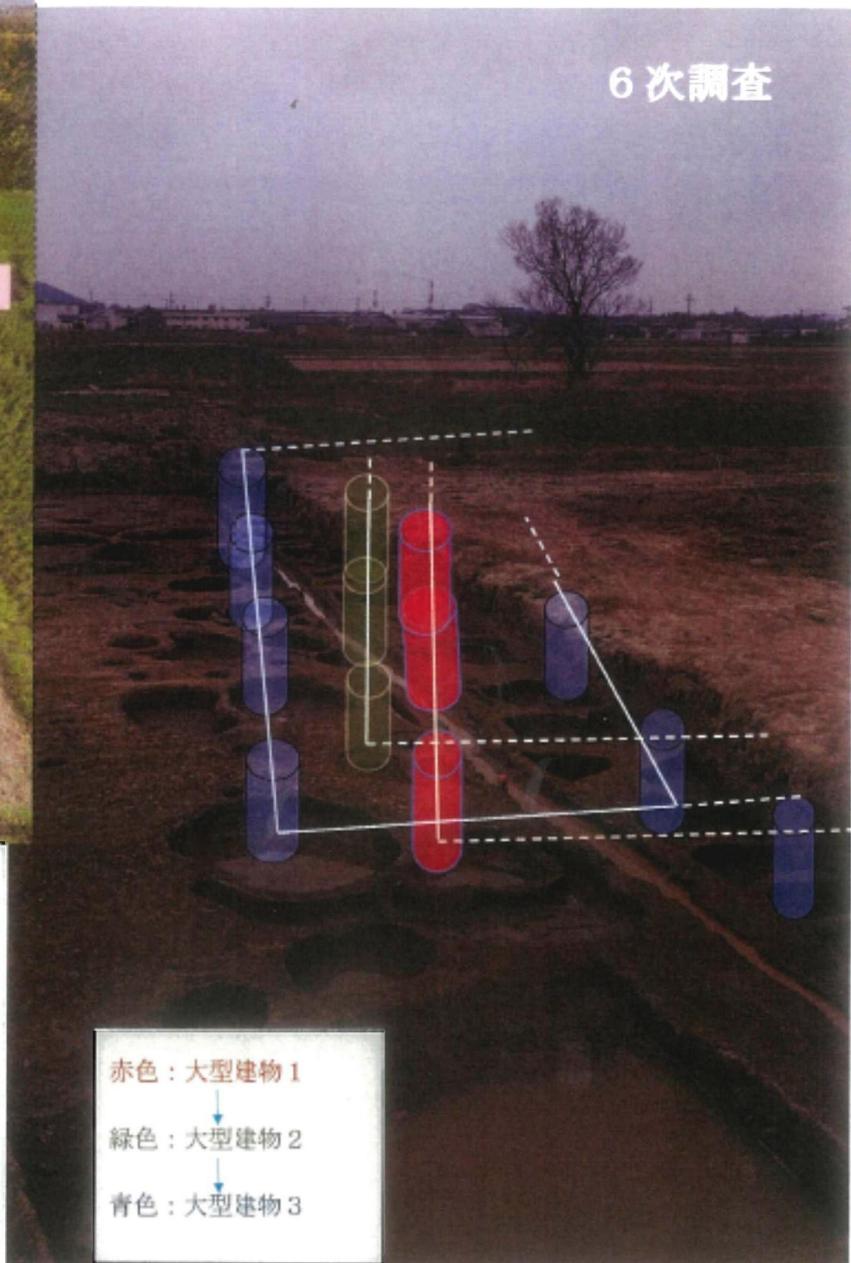
第7次

7次調査



大型建物と超大型建物

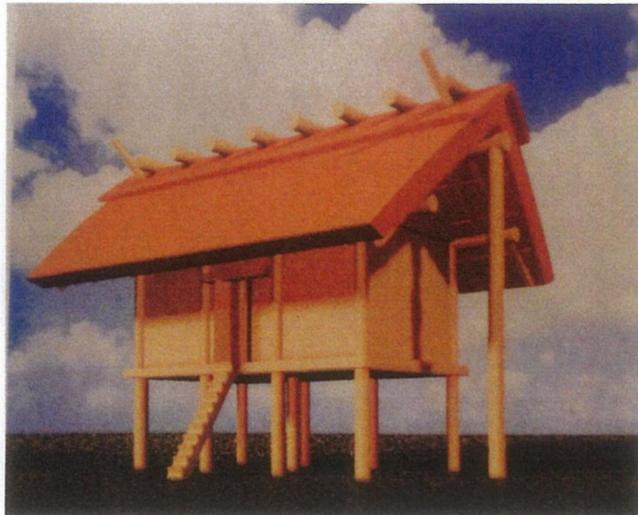
6次調査





3世紀前半の東アジア

(大阪府立弥生文化博物館 1999『卑弥呼誕生』) 改変



下長遺跡（滋賀県守山市）独立棟持柱建物の復元（滋賀県立安土城考古博物館 2009『大型建物から見えてくるもの』）

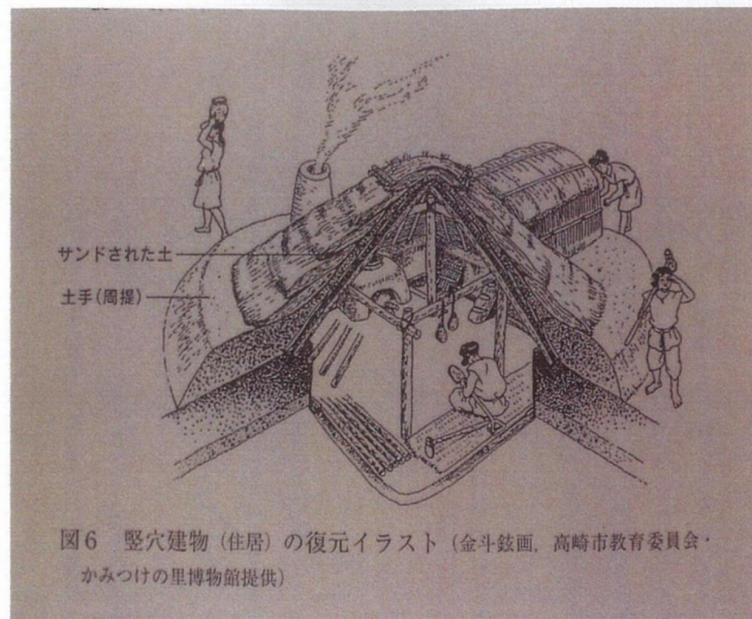
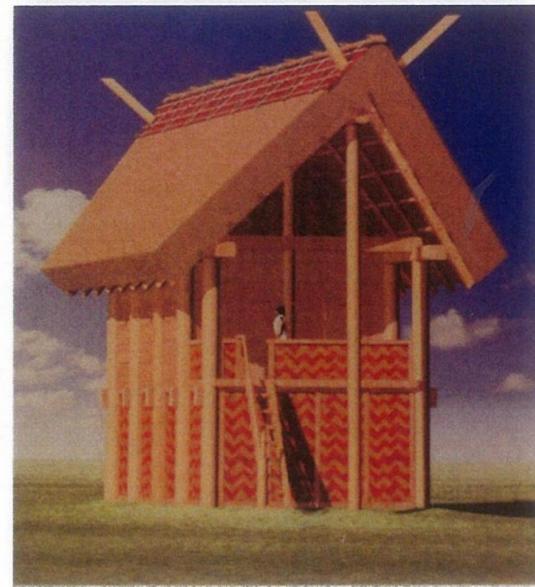


図6 壇穴建物（住居）の復元イラスト（金斗鉢画、高崎市教育委員会・かみつけの里博物館提供）

壇穴建物の復元図（若狭徹 2015『東国から読み解く古墳時代』吉川弘文館）



下鈎遺跡（滋賀県栗東市）独立棟持柱建物の復元（滋賀県立安土城考古博物館 2009『大型建物から見えてくるもの』）



サラワク族の鍛冶作業風景

(村上恭通 1999『倭人と鉄の考古学』青木書店)

1920年代のジャワ・スマトラ島に住むサラワク族の鍛冶作業風景です。

屋外で作業しており、ビストン鞴を吹く一人（左）がいて、その隣で三人（右）が炉の傍で鍛打の作業を行っています。二人は蔓で固定した石錐をふるい、金床石も蔓で固定され、緩衝材として木材の上に置かれています。鍛冶炉はほとんど掘りこまれていません。長い棒状の素材の先を加工したピンセット状の道具で挟んでいます。

弥生時代の石器主体の鍛冶具のあり方や鍛冶技術を考える上でとても参考になる民族誌です。工房の様子や作業空間など、当時の鍛冶技術はまだまだ分からぬことが多い、民族誌を参考にした発掘調査成果の比較検討が期待されます。

表 東アジア史年表と稻部遺跡群の動向

西暦	時代	日本(倭)のできごと	稲部遺跡群ほかのできごと	王朝	主な皇帝	中国・朝鮮半島のできごと
100		107 倭国王帥升らが後漢に朝貢する。	豊穴建物による集落が形成され、西側では多角形の豊穴建物が展開する。 (伊勢遺跡で巨大なマツリ場が成立する。) 小規模な鉄器生産が開始される。	後漢	和帝 安帝 順帝 桓帝 靈帝 獻帝	184 黃巾の乱。 190 遼東太守公孫度が自立を強める。 204 公孫康が帶方郡を設置する。 208 曹操と劉備・孫權との赤壁の戦い
150	弥生時代後期	このころ倭国乱。 このころ卑弥呼が共立される。	稲部遺跡の時代は「卑弥呼の時代」「縄向遺跡の時代」と重なります。			
200	弥生時代終末期庄内式期	239 卑弥呼が難升米らを魏に派遣する。 240 帯方郡からの使者が倭国に派遣される。 243 卑弥呼、使いを送る。邪馬台国と狗奴国との戦い。 247 卑弥呼、使いを送る。 248 このころ卑弥呼が亡くなる。再び戦乱が起こる。 壹与が女王となる。	豊穴建物による集落が継続し、集落の西側で周溝付建物が出現する。(大和東南部で縄向遺跡が出現する。) 北端では独立棟持柱建物(儀礼施設)と金属器工房(鉄器生産と青銅器鋳造)が出現する。 豊穴建物が急激に増え、掘立柱建物も増える。北端では独立棟持柱建物によるマツリ場が柵によって区画され、南側の豊穴建物群の一画で大規模な鉄器生産が行われる。 多数の豊穴建物群による集落が継続し、南側では方形区画(居館や儀礼施設の可能性)と独立棟持柱建物が出現する。方形区画南側の大規模な鉄器生産は最盛期を迎える。	三国(魏・吳・蜀)	文帝 明帝(魏)	220 曹丕が皇帝となり、魏を興す。 221 劉備が皇帝となり、蜀を興す。 222 孫權が自立して、吳を興す。 234 魏と蜀の五丈原の戦い。 236 遼東の公孫淵が燕を興す。 238 魏が公孫氏を滅ぼす。 263 吳が滅びる。
250		266 壱与が西晋に朝貢する。			武帝 孝惠帝	265 司馬炎が西晋を興す。 280 西晋が吳を滅ぼし、中国統一する。
300	古墳時代前期布留式期	この時代、こんなに大きな建物のある遺跡は珍しい! クニの中核部で、地域の有力者がいたことは間違いありません。	鉄と交易の時代に栄えた稲部遺跡 溝による方形区画のあった場所で、新たに柵による区画を伴う超大型建物(居館の可能性)が出現するとともに、北側では大型の独立棟持柱建物(儀礼施設)が建つ。その後、巨大な倉庫が建てられる。	西晋		301 八王の乱が始まる。華北混亂。 313 高句麗が楽浪郡を滅ぼす。
350		367 百濟の使者が倭国に派遣される。	稲部遺跡はずいぶん長い間続いた集落だねえ。	東晋		
400		413 倭王讚が東晋へ使いを送る。 425 倭王讚が宋へ使いを送る。 438 倭王珍が宋へ使いを送る。 443 倭王済が宋へ使いを送る。	掘立柱建物による集落が継続し、大溝が掘削される。朝鮮半島系の土器(百濟の陶質土器など)がもたらされる。 荒神山古墳(大型前方後円墳)が築造される。			404 高句麗が倭と戦う。
450	古墳時代中期	478 倭王武が宋へ使いを送る。	荒神山古墳は国指定史跡。 どうして荒神山に大古墳が作られたのだろうか? はたしてどんな王が眠っているのでしょうか? 周辺は、わくわくする謎でいっぱいです。	宋 齊 梁		
500						